

待機時間削減が重要

大ト協海コン部会 役員会

【大阪】大ト協海コン部会（山口与嗣雄部会長）は11日、役員会を開き、夜間パトロールや各種報告事項について協議した。

時間は、大阪南港と日時を交えて神戸港でも実施するとした。

また、9月に実施された大阪運輸支局と適正化事業実施機関などによる合同夜間パトロールについて報告が行われ、「今回、南港地区を調査し、約40社のシャシー切の離しが確認された。今後、車両の所有者確認などを「地道な活動で最近シャ

シヤシーなどの放置車両は減少したと言われている。しかし、いまだ

に、一部では放置車両も存在している。事故が発生してからは遅いため、徹底した放置車両撲滅に取り組んでいく」と話した。

報告事項では、今年7月から同部会をはじめ阪神港海コン協会でも実施しているコンテナターミナルや倉庫会社

め阪神港海コン協会でも実施しているコンテナターミナルや倉庫会社前での待機時間記録について、報告され、大阪港では少ない待機時間40分、長いと

このころでは1時間半との報告があった。これを踏まえて、ある役員は「今回、国交省が進めている待機時間に対する賃金請求についてはあくまでも荷主に向けたもの。我々海コン業者をはじめ倉庫へ配送する運送会社は、待機させているコンテナターミナルや倉庫会社に対して待機時間の請求が成り立たないことも考えられる。国交省や国に対して待機させた企業、施設（コンテナターミナルや倉庫会社、荷受先など）に対して請求が行える体制を整えないと、待機時間は解消しにくい」と話した。

さらに海コン輸送では荷主、乙仲、海貨業者など複数の団体が存在し、待機時間に対して賃金を請求する相手がバラバラであることから、待機させられた機関での請求が出来る制度が必要と強調。これに対して山口部会長からも「待機時間は長時間労働につながる、ドライバーにとっても我々経営側にとっても大きな負担となる。待機時間を削減することが最も重要」とあるとした。

（佐藤弘行）

